

平成28年度 研究開発助成事業 札幌ライフサイエンス産業活性化事業 事業化支援補助金（6件）

No.	研究開発テーマ名 および 研究概要	研究者氏名【所属／役職等】
1	<p><b>Liquid biopsyの実臨床導入に向けた臨床検査パッケージの開発</b></p> <p>組織採取による「生検」に代わるがん患者への低侵襲検査としてLiquid biopsyが注目されている。本研究では、血液中に存在する遊離核酸遺伝子（cfDNA）の変異定量解析に必要な精度が担保できる血液保存や輸送の標準化を行い、地域差のない臨床検査の汎用化を目指す。</p>	<p>水上 裕輔 [札幌東徳洲会病院附属臨床研究センター／がん研究部 部門長]                      小野 裕介 [札幌東徳洲会病院附属臨床研究センター                      ／臨床生体情報解析部 部門長]                      木下 憲明 [株式会社ジェネティックラボ／取締役 先端医療事業本部長]                      石川 誠 [株式会社ジェネティックラボ／病理事業本部・臨床試験部長]</p>
2	<p><b>治療困難な悪性脳腫瘍の新規根治的治療薬開発</b></p> <p>脳腫瘍のうち悪性度が高い脳腫瘍に対しては放射線治療とテモゾロミドの併用療法が用いられるが、テモゾロミドの脳移行性が低く著効率はわずか9%で数ヶ月の延命効果しかない。本研究は悪性脳腫瘍の根治を目標に、脳移行性が高く、かつ脳腫瘍細胞に対する増殖阻害効果が強く安全性の高い治療薬の実用化を目指す。</p>	<p>塚谷 政弘 [北海道大学大学院薬学研究院／准教授]                      内田 丈士 [ライラックファーマ株式会社／代表取締役]</p>
3	<p><b>北海道産水産物由来コンドロイチンとⅡ型コラーゲンの有効活用</b></p> <p>北海道特有の水産廃棄物に含まれるコンドロイチンおよびⅡ型コラーゲンを機能成分とした健康食品や化粧品の実用化をめざし、これらの高収率な抽出・精製技術の開発と、機能性の実証（in vitroレベル）をおこなう。食機能性としては高齢化社会におけるQOLの向上を目的とした抗肥満、関節炎低減、免疫機能活性化効果等に注目する。</p>	<p>都木 靖彰 [北海道大学大学院水産科学研究院／教授]                      佐伯 宏樹 [北海道大学大学院水産科学研究院／教授]                      宮本 宜之 [丸共バイオフーズ株式会社／代表取締役社長]                      柚木 俊二 [地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター／主任研究員]</p>
4	<p><b>北海道産大麦若葉エキスの抗肥満効果に関する実証研究</b></p> <p>今年度北海道産大麦若葉エキス末製品が初めて世に誕生する。大麦若葉には抗肥満効果があることは知られており、その作用機構の解明として、Smart-Hによって設立された道内機能性評価拠点の一つである高度脂質分析ラボラトリーを活用し、3T3-L1 前駆脂肪細胞を用いた脂質合成抑制効果や脂質分解促進効果といった作用機序を実証する。</p>	<p>津久井 隆行 [北海道大学大学院保健科学研究院／助教]                      佐藤 浩志 [日生バイオ株式会社／副主任研究員]</p>
5	<p><b>悪性神経膠腫の浸潤・予後に関与する因子による次世代の診断・治療法の開発</b></p> <p>悪性神経膠腫は予後不良であり、一因として腫瘍の浸潤が挙げられる。しかし、特定の浸潤マーカーは同定されていない。我々は、ACTC1（actin alpha cardiac muscle 1）という分子が悪性神経膠腫の浸潤に関与し、予後と強く相関することを世界で初めて見出した。今後、浸潤の機序解明を進め、診断キットの開発、創薬を目指す予定である。</p>	<p>鰐淵 昌彦 [札幌医科大学 医学部 脳神経外科／准教授]                      本望 修 [札幌医科大学医学部附属フロンティア医学研究所／教授]                      佐々木 祐典 [札幌医科大学医学部附属フロンティア医学研究所／講師]                      吉川 義洋 [ニプロ株式会社／部長]</p>
6	<p><b>ケモカイン受容体抗体による新規重症インフルエンザ治療薬の開発</b></p> <p>ノーステック財団研究開発助成事業で得た知見およびノウハウを基に、本研究では重症インフルエンザの治療標的候補であるケモカイン受容体について動物モデルを用いて精査する。また、本受容体に対する機能阻害抗体を作出し、動物モデルにおける本受容体を標的とする重症インフルエンザ治療効果の評価へとつなげる。</p>	<p>高山 喜好 [株式会社 エヌビー健康研究所／代表取締役]                      栗林 沙弥 [株式会社 エヌビー健康研究所／研究員]                      喜田 宏                      [北海道大学 人獣共通感染症リサーチセンター／特別教授]</p>